

#### 土浦全国花火競技大会の開催日程の変更について



松本茂男 議員

**質問** 花火は天気が重要だ。49年前の東京オリピックは、晴れが多いというデータを基に実施された。第1と第2土曜日の天気を精査し検討してはどうか。

**産業部長** 土浦全国花火競技大会は、今年で82回目となる歴史と伝統のある大会で、今年は10月5日に開催し、全国から56の花火業者に参加をいただき実施した。気象データによる過去10年間の本市の10月上旬に1ミリ以上の雨が降った日の確率は約48%、中旬には約39%、下旬には約38%、11月上旬には27%と低くなる傾向が見られる。

土浦の花火は、毎年70万人の観客を集める本市最大のイベントであり、これからも多くの方に喜びと感動を与える大会として、また、土浦に参集する花火師に対しても、最高の条件の下で大会を開催

することは我々の願いである。

10月の第1土曜日は、土浦の花火として定着しており、日程の変更は簡単なことではないが、引き続き気象データの収集に努め、大会関係者と協議・研究を重ねてまいりたい。

#### (掲載以外の質問事項)

- ・土浦協同病院について
- ・給食センターについて
- ・給食について

#### 人が集まる土浦について



藤川富雄 議員

**質問** 人が集まる土浦とするには、カレーフエスティバルのようなイベントが活性化対策事業になる。今年、エアショーが行われた経緯について伺います。

**産業部長** 本年のカレーフエスティバルは、第10回の節目となる記念大会であったことから、できるだけ大勢の方に来場いただけるよう2日間

開催の決定がされたものです。本年の開催にあたっては、土浦青年会議所が毎年主催しているまちづくりシンポジウムの一環として、アクロバット飛行によるエアショーが計画されており、青年会議所とも相談をし、連携し準備を進め、共同開催したものです。

カレーフエスティバル初日には迫力あるエアショー、2日目には子どもに人気のゆるキャラまつりを開催し、2日間それぞれ趣向を変えることで、より多くの方が集客されたと思っている。

これからも新たな企画を盛り込みながら進化を続けてまいる所存ですが、来以降は来場者を土浦駅の西口方面へ回遊させるような仕組みづくりにについても推進したいと考えている。

#### (掲載以外の質問事項)

- ・市内の空き店舗利用について



#### 千曲川ワインバレー構想から学ぶ遊休耕地の活用について



白戸優子 議員

**質問** 耕作放棄地や遊休耕地の活用と農家の高齢化に対応した取り組みとしてワインづくりが注目されている。本市でも、同様の取り組みを開拓してはどうか。

**産業部長** 農業は、労働に見合うための収入が不安定であること等の要因により、若者の農業離れが進み、農業者の高齢化や担い手不足等による遊休耕地の増が全国的にも問題となっている。遊休農地の解消策として、長野県では、千曲川を含む4地区でワイン産業の振興を図っており、町、JA、関係機関を挙げて支援体制をとっている事例がある。

ワインによる遊休農地対策は、新たな食によるまちづくりや観光振興、地域の活性化への期待が持てるものと感じるが、栽培、加工、販売を総合的に手

がける長野県のような全県挙げての取り組みは、現時点では難しいものと考えている。

意欲ある農業者の新たな地域産業の発展を目指す取り組みに対しては、遊休農地の活用を考慮しながら、製品化に向けての6次産業化に対し、農業部門からの支援を行い、地域の活性化につなげたいと考えている。

#### (掲載以外の質問事項)

- ・動物愛護意識の啓発

#### 常名運動公園の有効活用として太陽光発電や市民観光広場に!



古沢喜幸 議員

**質問** 常名運動公園計画を中止し、メガソーラーとともに土浦市民の英知を活かした市民観光広場として活用すれば、市の活性化に寄与すると思うが如何か。

**都市整備部長** 常名運動公園は、市の総合運動公園として、平成3年度に都市計画決定し、平成4年度の事業認可を経て事業着手したもので、現